

EU 支部長: 松原真実子 MATSUBARA Mamiko

青森県八戸市出身 国際文化専攻修了 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp



この号の内容

1 イタリアと日本

噴火 について共同研究

—Intesa Italia Giappone per lo studio avanzato dei vulcani—

2 EU 支部だより

ホームカミングデー

・火山噴火予知

・X線撮影

・御岳山

イタリアと日本 噴火について共同研究

—Intesa Italia Giappone per lo studio avanzato dei vulcani— (2014年12月4日 24ORE)

いつ火山は噴火するのか？

その答えをだすには、まだまだ長い道のりが必要だ。しかし、確実に予知への可能性は改善の方向に進んでいる。火山と地震の活動が特に多い国であるイタリアと日本では、火山噴火予知に向け、世界の最新技術のもと、共同研究を進めることを決定した。東京の大学とイタリアの Nuclear Physics の全国学会、Geophysics、Volcanology の全国学会の間で合意。目的は、マグマと素粒子を通して火山の内側の構造の正確な視覚化である。これは、一種の「X線撮影」によるもので、今後の研究調査に多大な影響を与えると期待も大きい。

しかし、噴火を予測することは「予想」のレベルにとどまる。というよりは、より精密に調べその予測の幅を最大にすることが重要である。日本では、御岳山（東京の西 200 キロ）で観光客 10 名が亡くなる噴火がおこった。この噴火は突然であり人々を驚かせた。来年初めに、仙台の原子力発電を復活させたいという政府の願いに現在影をおとす結果ともなっている。INGV の Structure Volcanos のマネージャーによると、「科学の進歩は、最新の技術を使い調査しそれらを多方面から検討することが必要です。そして、自身の専門分野からたとえ遠いと思われる分野であっても可能性があるのであれば検討し情報を集めることが重要なのです」

今後、両国間での研究成果が、火山噴火予知への革新的な一歩となるよう、その期待はさらなる高まりをみせている。



EU 支部だより—ホームカミングデー

・ただいま おかえなさい

・11月16日

先日、宇大からホームカミングデー参加のお知らせがきた。時期を同じにして、私が勤務している大学でもホームカミングデーを開催することになっていたので、記事や学内報、写真など興味深く拝見した。ホームカミングデーはホームつまり母校に戻る日であり、「ただいま」「おかえりなさい」とホッと心をくつろがせる日である。私が勤務している大学は、人間学部・経営学部・看護学部と3学部をもつ大学で、いわば小規模大学である。それもあり、教員も職員も1人ひとりの学生の名前を呼ぶ。そんな指導や支援を行っている。だからこそ、ホームカミングデーは、「おかえりなさい」の気持ちを前面に、卒業生の皆がホット安心してくつろぎ楽しんでもらえるような日にしたいとの思いが強い。11月16日（日）第1回であるホームカミングデーは、学長、副学長も楽しむ「おかえりなさい」の気持ち溢れたアットホームなものとなり、卒業生からも大好評であった。大学を母校でありホームだと末永く思ってもらえるよう、そしてそこで働く私達自身もホームとなることができるよう、日々励んでいきたい。（松原）